

# パラパラ漫画を作ろう ー表現ー (2)

～形を変化させて動く絵の楽しさを味わう～

広島市立東野小学校 金光 修平

1 日時・場所 平成23年10月 日 曜日 5・6校時 ( )

2 学年・組 6年2組 (男子15名 女子15名)

3 題材について

## ○児童観

本学級の児童は、男子・女子共に元気があり、どの学習においても自分で工夫してノートをとる等、積極的に学習しようという姿勢が育まれている。女子の少数は休憩時間に漫画を描いたり新聞を作ったりと、比較的造形活動を好む傾向が強い。

事前に道徳の教材で「まんがに命を」という単元を学習しており、児童はアニメに興味を持ち、さらに表現には慣れている。しかし、自分の考えに自信が持てず、教師の意見を求める児童もいる。

また、作品の表現技法については、様々な図工の課題に取り組む中で、多くの表現や技法を体験してきている。

## ○題材観

本題材は、絵が動くことを楽しむ学習内容である。1枚の紙に丸を描き、少しずつ変化をさせて連続させて動かすとアニメーションとなる。こうした学習過程では、絵を動かすには、絵のどこを、どのように変化させていけばよいのかを考え、表現意図を吟味しながら絵の画面を構想していく力が必要となる。アニメーションを作成する過程では、小さな画面の中で絵が動くこと、ストーリーになっている事を意識して表現しなければならない為、ただ「描く」だけではなく前後の絵のつながり、ストーリーの繋がり、見え方、絵の動き等様々な事を総合し、工夫して考えながら制作していく学習が存在する。

## ○指導観

この題材では、子どもたちにとって身近な存在であるアニメーションを実際に作る中で、①アニメーションの楽しさを知る②短いストーリーの構成を考えるの2点についての指導が重要となる。そして、児童が小さな紙の中で絵が動くことやストーリーになっている事を意識して表現しなければならない為、ただ「描く」だけではなく前後の絵のつながり、ストーリーのつながり、見え方、絵の動きなど様々な事を考えさせながらの取り組ませる必要がある。なお、短いストーリーを作る際には、「台詞を用いず、絵で伝える」ことを促そうと考える。また、一人ひとりの「ストーリー」や、「表現」が小さな紙の中に込められる為、全体的な指導よりも、子ども一人ひとりのイメージを大切に、子ども自らが考えていく過程を大切に、自分の作品に表現することを楽しめるよう指導したい。

4 題材の目標

パラパラ漫画に興味・関心を持ち、自由に発想して動く絵の楽しさを味わうなかで、表したい絵の色のつけ方を工夫して、線や色がどう見えるかを表現したり鑑賞したりすることができる。

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
	アニメーションに興味・関心を持ち、自由に発想して動く絵の楽しさを味わう。	表現意図に応じて、絵のどこを、どのように変化させていけばよいのかを考えて、画面を楽しく計画することができる。	表したい絵の色のつけ方を工夫して、アニメーションにした時、線や色がどう見えるかを工夫して粘り強く表現することができる。	自分や友達の表現の良さや工夫をすすんでみつけ、楽しく鑑賞することができる。
	アニメーションに興味・関心を持ち、自由に発想して、活動する。	表現意図に応じて、絵のどこを、どのように変化させていけばよいのかを考えて発想する。	自分の思いにあわせて、色鉛筆やポスターカラーやマーカーなどの表現方法を選び、その特徴を生かして、工夫して表す。	自分や友達の表現の良さや工夫をすすんでみつけ、楽しく鑑賞することができる。

## 6 指導と評価の計画（全5時間）

時間	学習活動	学習活動における具体の評価規準等		
		観点・評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する状況への 手だて
第一 次	・アニメーションの仕組みを知り、ストーリーを構成する。	アー①児童の様子の 観察	・描き表したいもののイメージを持ち自分なりに構想を練る。	・教師が作ったパラパラ漫画を見せる。
第二 次	・ストーリーを構成して、アニメーションを制作する。	イー①活動の様子の 観察・作品 ウー①活動の様子の 観察・作品	・ストーリーを明確にもち、発想を広げながら工夫して描き表す。	・童話や昔話を参考に考えてみるように促す。
第三 次	・友達と作品を鑑賞しあいお互いのいいところを見つける。	エー①活動の様子の 観察・作品	・友達の仕事の工夫や思いに気づき、伝えようとしている。	・友達の仕事と自分の仕事の良いところを見つけるように声をかける。

## 7 本時の目標

- 絵を動かした時の見え方を考えて、着色の方法を考えることができる。
- 自分の考えや思いをストーリーとして構成することができる。

## 8 準備物

- (指導者) 紙 洗濯ばさみ
- (児童) 色鉛筆 鉛筆 ピグマペン

## 9 本時の展開

○主なる指示 ・発問 ■評価

区分	学習活動と内容 (予想される児童の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	準備物 資料等
導入 5分	1 前時の制作の続きを行う。 ・ストーリーを練る。 ・実際に描き始める。 ・マーカーやペンで着色する。 ・「難しいなあ」 ・「この場面はやっぱりこうしよう」	○児童の発想を大切に、個々の質問に対して助言や支援を行う。  ・どうしてもストーリーが思い浮かばない児童には、童話や昔話を参考に考えてみるように促す。	
展開 35分	2 工夫して表現する ・「上手くいった。」 ・「何だか途中がおかしいな。」 ・「何色にしようかな。」 ・「思っていたより、絵が小さかったな。」 ・「絵が上手に動いたよ。」	○絵がアニメーションになっているか、制作の途中で試してみるように声をかける。	
まとめ 5分	3 学習のまとめをする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">工夫したとは、どんなところですか？</div> ・「うまくできた。」 ・「もう少し、ここをこうしてみよう。」 4 後片付けをする。	○工夫したところを自分で確認させる。  ■自分の考えや思いをストーリーとして構成し、工夫して表現することができたか。 ■絵を動かした時の見え方を考えて、色を工夫することができたか。	